

講演会のご案内

平成20年11月07日

デリダの次の世代を代表するフランスの哲学者と目されるジャコブ・ロゴザンスキー教授（ストラスブール大学）は、現在の様々な政治的コンフリクトの原因の一つが共同体の表象（フィギュール）としての「身体」の崩壊にあると指摘し、身体に代わる比喻形象は可能かと問うています。

大阪大学グローバルCOE「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」では氏の講演を手がかりとして、グローバリゼーションに伴うコンフリクトの激化とその焦点の一つである移民問題に、根源的かつ緊急な角度から迫ることをめざします。多くみなさまのご来聴を歓迎いたします。

大阪大学グローバルCOE「コンフリクトの人文国際研究拠点」

RF「コンフリクトと価値」・小林傳司

(大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授)

■ 講演会（公開）

講演者：ジャコブ・ロゴザンスキー教授（ストラスブール大学）

タイトル：「世界に生まれ出ること——政治的なものの可能性についての9つの命題」（仮題）

※ 講演はフランス語で行われ、日本語テキストが配布されます。講演後の質疑応答には日本語通訳がつきます。

日時：2008年11月27日（木）午後3時～6時

場所：大阪大学豊中キャンパス・待兼山会館2階会議室

<http://www.osaka-u.ac.jp/jp/annai/about/map/toyonaka.html>（地図上35番の建物です）

共催：大阪大学文学研究科臨床哲学研究室

● 研究打ち合わせ（関係者のみ）

日時：2008年11月27日（木）午後7時～午後9時

場所：大阪大学豊中キャンパス・共通教育人文社会科学棟2F・人文演習室

■ 講演者紹介

国際哲学院（コレージュ・アンテルナショナル・ド・フィロゾフィー）のプログラムディレクター、パリ第8大学講師を経て、現在、ストラスブール大学形而上学講座教授。また2002年にストラスブールで「哲学者の議会」を創設、その議長として、氏が哲学者の「公民的任務」だと考える市民との対話を実践している。来日にあわせて、政治哲学論集『身体と政治的なもの（仮題）』（月曜社）が出版予定。